令和６年度　関市廃棄物減量等推進審議会議事録(要旨議事録)

開催日時	令和６年６月１９日（水）13 時 30 分～15 時 00 分
会　場	関市市役所６階 6-6、6-7 会議室
出席委員	計 17 名(うち委任状出席１名　足立　貴英)
欠席委員	なし　（敬称略・順不同）
事務局	津谷 典男（市民環境部長)、後藤 英矢(環境課長)、安田 学史、長野 哲郎、黒柳 遥風
傍聴者数	０名
議　題	（1）　令和６年度関市一般廃棄物処理実施計画について （2）　第２次関市一般廃棄物処理基本計画の点検・評価について

議事要旨

	開会
	市民憲章唱和
委嘱状交付	市長より代表者１名に委嘱状交付
挨拶	市長挨拶
事務局	資格審査 審議会委員数 17 名に対し出席委員 16 名、委任状提出１名。委員の過半数の出席となり規則第２条第５項の規定により、会議が成立を報告
	正副会長の選任 互選により次のとおり選任 会　長　中嶋　亘 様 副会長　坂井　一弘 様
	諮問 市長より諮問書を会長へ提出 諮問書 関市廃棄物の処理及び清掃に関する条例第２条第２項の規定に基づき、次のことについて、ご意見を賜りたく諮問します。 （１）　令和６年度関市一般廃棄物処理実施計画について （２）　第２次関市一般廃棄物処理基本計画の点検・評価について
事務局	それではこれより会議の進行を会長にお願いしたいと思います。 よろしくお願いします。
会長	それでは審議を始めたいと思います。皆様のご協力をもって進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 さっそくですが、議題に入りたいと思います。 なお今回の諮問は意見をほしいというものでしたので、決議はありません。皆様のご意見をいただければと思います。 それでは、まず１件目、令和６年度関市一般廃棄物処理実施計画について事務局か

	ら説明をお願いいたします。
事務局	議題（1）について説明。（資料１）
会長	議題（1）について質疑、意見を求める。
委員	ガレキ類の処分についてですが、レミックマルハチが廃業されたので、三重中央開発へということですが、三重県へ持ち込むということでしょうか。
事務局	そうです。クリーンプラザ中濃に持ち込まれたガレキ類を、三重県の中央開発へ持込み、そこで最終処分をしていただいています。
委員	今後ずっとそのようにされるのですか。
事務局	県内に利用できる施設があれば検討したいと思いますが、今のところ、この業者へ持ち込むことにしております。
委員	クリーンプラザ中濃にも最終処分場があると思うが、そちらには埋め立てないのですか。
事務局	クリーンプラザ中濃にも最終処分場はありますが、埋却できる量にも限りがありますので、持ち出しができるものは持ち出しています。
委員	クリーンプラザの最終処分場はあと何パーセントくらいですか。
事務局	すみません細かい数字は把握していないですが、今の使用方法で、あと 30 年ほどは使用できる容量を確保しています。最終処分場を新たに建築することは難しいので、できるだけ長期間延命をするために、持ち出しができるものは持ち出すような方針でいます。
委員	ガレキ類と燃やせないごみの区別が良くわからないのですが。
事務局	ここでいうガレキ類とは、コンクリートガラ、瓦などのことです。普通、建設物などを解体業者が壊した場合は産業廃棄物になるので、それではなく、個人で壊した物などに限ります。
委員	産廃は産廃の処分場があるのですか。
事務局	そうです。一般廃棄物と違い、産業廃棄物は市で処理する義務がないので、専門の産業廃棄物処分業という業種の方が処分を行います。
委員	わかりました。
委員	昨年も発言した内容と重なるんですが、今回、(草木のリサイクルをされている)山友木材の方が委員でいらっしゃいますが、自宅の庭を選定した枝などを指定袋で出すのは難しいので、クリーンプラザに持ち込んでいますが、(山友木材さんなどで)リサイクルできるのであれば、その方が良いと思います。しかし、自治会の清掃などたくさん出る場合しか持ち込めないと思います。そのあたり、なにか良い方法がないでしょうか。
事務局	今回、委員で山友木材の方がいらしていますが、ある程度の量がないと引き取ることは難しいところです。それと収集運搬にも色々検討すべきことが多くて、今のところ見通しは立っていません。
委員	他の市では、グリーンボックスという、段ボールなどのリサイクルボックスのようなものを作っていて、選定した枝を入れておくと回収され、リサイクルされるという市町村もあると聞いたことがあります。同じような対応を検討していただければと思います。

事務局	研究していきたいと思います。
委員	し尿の汲み取り回数がそれなりにあって、下水道が通っているような町中でも汲み取りをやっているようですが、どんな理由かわかりますか
事務局	本来は下水道区域に入っている場合は下水道に接続をしないといけないのですが、借家で入居者の思いでは接続できないなどの理由で町中でもまだ汲み取りが残っています。
委員	市全体での下水道の普及率は何パーセントかわかりますか。
事務局	水洗化率とか生活排水処理率でだいたい 98 パーセントくらいです。
委員	ありがとうございます。
委員	３つほどお聞きしたいです。 脱炭素やカーボンニュートラルの取組み、地球温暖化の取組みについては、この実施計画ではどうつながってくるのか 安全衛生関連について、収集運搬、処理施設などでの安全管理はこの計画の中にあるべきなのかどうか 収集運搬、処分業の業者の評価の仕組みはどうなっているか。 この 3 点についてご説明をお願いします。
事務局	まず１つ目の脱炭素についてですが、この一般廃棄物処理についての計画とリンクした環境基本計画というものがあり、その中で廃棄物処理の脱炭素について触れさせていただいており、市のごみの処理においても脱炭素をすすめることが望ましいと思っています。まだ実験という形ではありますが、一部のごみ収集車の燃料にバイオ燃料を使用しています。上手くいくようであれば、ゆくゆくはそういったものにどんどん切り替えていくということも検討したいです。また昨年度、リサイクル車にハイブリッド車を導入しました。普通のごみ収集車は容量などで難しい点もありますが、切り替えができるところはできる限り脱炭素に取り組んでいきたいと考えています。 2 つ目の安全面の話ですが、この計画はあくまでごみの収集や処理についての計画で、施設や組織の運営については含んでいない計画なので入っていません。それぞれの部局などで安全対策は行っていただいているということになります。 ３つ目の処理業者の評価についてですが、まず、一般廃棄物処分業と産業廃棄物処分業ではその位置付けが違います。一般廃棄物については本来、市町村に収集運搬・処分の責任があり、その中で市では手が回らない最小限について、委託なり業許可なりを行って、収集運搬・処分を行うというものになります。委託は毎年、業許可であれば 2 年毎に契約や申請書類をいただいて、その必要最小限の部分を確認して、業者さんに委託や処理業許可として動いてもらっているというものになります。
委員	ありがとうございます。 １つ目、脱炭素について、今は SBT(Science Based Targets)やスコープ 1,2,3 というような取り組みを企業は行っていて、脱炭素に関する取組みの前後でどれくらい CO2 が削減できたかというのは KPI(Key Performance Indicator) などの数値で管理されている。行政もそういった取組みを取り入れてはどうかと思います。燃料高騰の問題などもありますので、廃棄物処理施設での省エネ診断など、業務プロセス、処理プロセスの改善を図って、CO2 の削減の取組みなどもされるべきだと思います。そう

	いうことが、この計画に入っていないのであれば、どこかの計画なりで取り入れられるべきだと思いますので、検討をお願いいたします。 2つ目安全対策ですが、昨年26歳の若者が命を落とす事故がありました。あのような事故は教育訓練をしっかりしていれば、落としたものを下に取りに行くなんてことは絶対にありえないので、拾いに行く方が悪いということよりも、教育をしてこなかった組織の方が悪いということなんです。一般企業ではありえないことが起きた。そういったところがちゃんと教育されていれば、若い命が失われなかった。そういった教育訓練がしっかり行われているかどうかというようなことを評価項目としてやるべきだったんじゃないか。2年位前にも事業者を評価するべきじゃないかという話をさせてもらいましたが、一般廃棄物業者は評価システムとなじまないという当時のスタッフの方のご意見だった。しかし、全国を調べると、収集運搬、中間処理について、市独自の評価システムを入れているところがあるんです。関市もそういったところを入れられるべきじゃないかと思います。また、処理業者のレミックマルハチさんが3月に自己破産されました。そういった業者が登録されていたということは、そういった業者の業務状況や財務体質といったところの評価がなかったからだという一面があると思うんです。許可業者が途中で事業停止や撤退すると、そこに依頼していた処理がその先どうするんだとか、無駄な業務が発生したりとか、市民が困ることが起きたりするので、そういう業者の評価っていうのが大切だと思います。 よろしくご検討をお願いいたします。
事務局	今後検討いたします。先ほど省エネ診断の話が出ましたが、市の方でも受けようという話が出ております。
会長	その他ございませんか。
委員	最初のページで、今年の排出見込みが、前年実績より増えてしまっていますが、増える見込みの理由はありますか。
事務局	一般廃棄物処理基本計画のなかで見積もられた目標値をそのまま載せています。
委員	直近の実績は反映されていないのですか。
事務局	一般廃棄物処理基本計画を作成したのが令和2年度なので、令和元年度までの実績から推計した計画書に記載された値を記載しているので、直近の数字と比べるとだいぶ違います。新型コロナウイルスの影響で事業系の廃棄物が大きく減っている関係で、令和4年度の実績はかなり少ないんですが、そういった要因がない場合に想定していた数値がこの発生見込量です。簡単に言えば令和2年度に推計した数値です。
委員	見込み量に意味があるのかないのかよくわからない数字ですが、去年と今年で大きく変わったものはありますか。
事務局	ありません。
会長	他にご意見ありませんか。
会長	それでは、続きまして、(2)第2次関市一般廃棄物処理基本計画の点検・評価について、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	議題（2）について説明。　（資料2、3） 基本指標について　（昨年度と比較） ・1人1日あたりごみ総排出量　　やや減少

	・1 人 1 日あたり家庭系ごみ排出量　やや減少 ・事業系ごみ発生量　やや減少 少しずつ減量が進んだ。 ・生活排水処理率　横ばい 下水道が普及しており、動きは少ない ごみの全体が減っているのは、令和２、３年頃の事業系ごみの大きな減小が主因 家庭ごみは順調に減っているが大きな変化はない 事業系ごみが同じようなペースでこの先も減り続けることはない 景気動向は不透明で、事業ごみがこのまま少ないままであるとは言えない。 令和 17 年度の目標を達成するためには、引き続き、ごみ減量施策を実施していく必要がある。 モニタ指標について（昨年度と比較） ・資源化率　ほぼ横ばい 民間回収拠点の増加により令和 2 年度から紙類、古着類の収集を取止め、収集量、資源化率が減っているが、実態は民間回収拠点でリサイクルされていると推測される。 ・最終処分量　大きく減 過去のデータでもごみの量と相関は無い。 ・市民 1 人あたりごみ処理費用　増加 クリーンプラザ中濃の施設改修が R14 年度に予定されていて、約 10 億円を一度には負担できないので昨年度から積立始めたため増加している。 燃料高騰、破損したストックヤードの修繕費が押し上げている。 ・ごみ袋使用枚数　ほぼ横ばい。 ・資源回収団体数　微増 新型コロナウイルスの影響からやや回復した。 昨年度に実施した主な施策/本年度実施予定の主な施策の説明 ・年間を通じ広報を出すなど、力をいれている ・ショート動画など新しい形の広報にも取り組んでいる。 ・市民アンケートでの評価は現行制度は概ね支持されている。 ・市民アンケート自由意見にごみ袋が高いという声が多いため、不公平感につながらないよう情報発信に努める。 ・資源を分別しやすい環境整備、高齢者が困らないごみ出しなど引き続き実施していく。 ・事業所向け適正指導を進める。 ・来年度の計画見直しのため、データの整理・検証を進める。
会長	議題（2）について質疑、意見を求める。
委員	生活排水処理率ですが、資料に単位がないのですが、下水道普及率や合併浄化槽普

	及率、そういった内訳を出して、100 パーセントにするにはあと何が何パーセントあるのでそれをどうするといった目的がはっきりするよう書くと良いのではないかと思います。実際には地域によっては 100 パーセントではないでしょうか。
事務局	生活排水処理率は、下水道と合併浄化槽これが生活排水を処理しているのでこの 2 つを使用している世帯を足した比率になります、単独浄化槽とし尿汲み取りの世帯については生活排水を処理していないので、それを足したのがのこりの 2.3 パーセントになります。
委員	そうすると、し尿収集を実際やっている世帯は、この 97.7 には含まれていないということで、実際にはその生活排水はなんかの形で処理をされているということでしょうか。
事務局	本来こうあるべきということであると、法律では生活排水は公共水域に出すときには処理をしなさいと決まっています。ただ、昔ながらの汲み取りの方や、今はもう設置できない単独浄化槽でし尿だけを処理しているところが残っている。そういったところは、先ほども少し話が出ましたが、特に町中などでは色々な事情があって、借家などでは自分では改装できないなど、特別な事情で残っているといったところです。もうこういった事情なので、普及率という点でいえば伸び切っているという状況です。
委員	SDGs などでこの項目を確認するとなると、もうすぐ 100 パーセントなら、じゃあ何をすればということになると思います。ぱっとここを見たときに、そのような事情が注意書きなどで明記されていればより分かりやすいかなと思います。
会長	他にございませんか。
委員	モニター指標の資源化率ですが、令和元年が 17.5 パーセントだと四捨五入すると約 2 割、令和 5 年が 13.9 パーセントは四捨五入すると約 1 割。これは分別の徹底がおろそかになってきたということでしょうか。
事務局	そう言ったことも一部ではあるかもしれませんが、紙類の収集が大きな要因です。令和元年までは市で紙類の回収を行っていたので、それも資源化率に入っているんですが、今は収集していないので、その分資源化率から外れます。これが低くなっている一番の要因だと思います。
委員	そうすると、ここの書き方が同じだと数字の意味が少し違ってくるので、注釈などを入れたほうが良いような気がします。
事務局	資源化率には統一した出し方があって、それに沿っています。収集の制度が変わっていることの注釈をつけることはできるかと思います。
会長	他にございませんか
委員	市民アンケートの中で不満、とても不満が 11 パーセントありましたね。これはごみ袋が高いだけの不満なのか、他に何か不満の要素はありますか。
事務局	自由意見にかかれていることだと思いますが、この数字がどんな不満かは正確に分析ができないので何ともと言ったところです。ごみ袋が高いの他には野焼きが行われているという意見があります。環境課にも野焼きの苦情が来ますのでそういったものではないかと推測しています。
会長	他にございませんか。

委員	先ほど聞き漏らしたかもしれませんが、モニター指標で市民 1 人あたりごみ処理費用の上昇分が、施設の更新・回収にあたって 10 億の積立を 1 億ずつするとお聞きしました。令和何年から始まっているんでしょうか。
事務局	令和 4 年度からです。
委員	令和 4 年度から市民 1 人あたりごみ処理費用が急に上がっているのはそれが原因と理解してよろしいでしょうか。
事務局	そうですね。それがすべてではないですが、大きな要因です。
委員	次の年にまたさらに増えてますが、その積立とは関係ない部分の増加と考えてよろしいですか。
事務局	そうですね。先ほど説明した通り、燃料の高騰とか、処分場の一部でストックヤードの改修を行いましたのでその費用の分、少し高くなっています。
委員	ありがとうございます。市民 1 人あたりごみ処理費用については理解しました。 私は環境審議会委員もしており、そちらでも少しお話させていただいていますが、家庭系ごみの生ごみについて、特に考えていただきたいと思っています。1 人 1 日あたり家庭系ごみ排出量の数字を見てみると、減ってはきているものの減少傾向が鈍化して、ほぼ同じような数字になっています。令和 17 年度に 440g という目標がありますが、これが達成できるんだろうかと思います。以前の資料も見せていただき、環境審議会の時にも思ったんですが、なかなか良い施策はないかもしれませんが、生ごみ処理機に補助金を出したり、市の方でも取り組んでおられるようですが、なかなかそれ以外の施策が出ないような感じがしています。やる人はやる、興味のある人はそういうのを買ってやる。ただ興味のないというか、ごみ袋で出してしまえばごみ袋代はかかるにしても出してしまえば片付くと思って生活している人も多いと思います。みんな忙しいので、それが当たり前かとも思います。でも、その人たちも救い上げて、みな同じようだしていたのを、すべては無理かと思いますが、生ごみを資源に変えていけたらと思います。生ごみ処理機やコンポストだけでは、多くの人が参加できる仕組みではないと常々思っています。 今回の審議会は、まだ計画策定ではないということですので、来年に向けて考える機会を設けていただけると嬉しいなと思います。 一般廃棄物処理基本計画の 32 ページに前回計画の評価があり、家庭から出る生ごみの分別収集は検討したが実施に至らなかったということが書いてあります。この経緯はなかなか簡単には説明できないとは思います。それで 61 ページには生ごみ堆肥の利用先の確保とあります、生ごみ堆肥は畑などの利用先がないと生ごみを処理しても使うことができません、農家、事業者、公共施設での生ごみ堆肥の利用を進めますと書いてあるんですが、生ごみ堆肥をだれがどこで作ったものかということは書いてない。市で作っていないのに利用先を確保するとなっている。一旦、実施に至らなかったということで、わたしとしては、生ごみの堆肥化は各個人に任せるということと認識していて、生ごみ堆肥化を個人でするか、指定袋で可燃ごみに出すかということと思っていたのですが、計画には利用先の確保となっている。この処理の一連の流れについて、確認の意味も含めてご説明をお願いいたします。
事務局	この利用先の確保というのは、個人で生ごみ堆肥化に取り組もうとしてもたい肥の

	利用先がないと言われる方がけっこういらっしゃる。そこで、その分を処理するというか、引き取り先を検討するというというものです。それと生ごみの分別収集に至らなかったというのは、集めた生ごみをリサイクルというのは堆肥化ということになるのですが、やっぱり生ごみだけを集めるということが純粋に難しい。やっぱり何か不可物は入ってしまう。そうゆうものになるともう堆肥化できない。それと生ごみを集めるということは収集時に臭いや汚れというものが出るので、なかなか単純にステーションでというわけにはいかない。そのあたりの問題が簡単にはクリアできないということで断念をしたという経緯があります。
委員	わかりました。ただ、だんだん生ごみ処理に対しての考え方も少し変わってきています。この検討をされたのは令和2年とのことだったので、その後他市ではダイレクトに回収するのではなくぼかしとか発酵促進剤をまぶした状態でだすとか、色々な取り組みをされていますので、再度またご検討をいただければと思います。
事務局	はい、検討をしていきたいと思います。 ちょっとずれるかもしれませんが、今年度、生ごみ問題の一つでもある、食品ロス対策の取組みを新しく行う予定でいます。子供さんにちょっと動いてもらって、家庭の冷蔵庫の中などの賞味期限切れをなくそうというような取り組みで、エコポリス事業というのを行う予定です。子供さんに夏休みに冷蔵庫の中などを点検してもらって、親御さんに食ロスにならないよう注意してもらうというような事業を今年度行う予定です。
会長	生ごみの取組みですが、先日、環境課から生ごみたい肥について、わたしの地域のふれまちの農園で、試験的にやりたいことがあるということでお話をいただいています。これについて説明していただけますか。
事務局	今、会長さんが言われた事業ですが、わたしは個人的に生ごみを乾燥させる処理機を使っていて、これは堆肥化ではなくて乾燥させてごみのカサを減らすものなんですが、それを土に混ぜれば多少時間はかかりますが堆肥化して、畑の肥料になるということで、自分の家庭菜園で使用しています。トマトやキュウリが育っているのでそれなりに効果はあると思っています。 ただ、こういったものは各家庭で出てくる組成が不均一なので事業としてやっておられる農家さんなどが肥料に使用するにはどうかというと、なかなか難しいかと思いますが、会長が参加しておられるふれあいまちづくり委員会で色々な人が農作業を体験できる農園に取り組んでおられるということをうかがいまして、試験的に、生ごみ処理機で乾燥させたものなどを集めて、その農園で使用して頂くようなことができないかとお話をさせていただきました。 まだ構想中でしっかりしたことはお話できないのですが、今、私の家から出てきた乾燥した生ごみをお渡ししてやっていただいているところで、一定量そういったものを集められないかということで検討しているところです。 ダンボくんという事業をご存知かと思いますが、生ごみをたい肥化するダンボール製のコンポストです。これの講習会を環境ネットさんでやっておられて私もスタッフで参加したことがあるのですが、そこでたい肥の利用先がない方がどれぐらいいらっしゃるか聞いてみたところ、10人に1、2人くらいの割合で、利用先はないと言われ

	ました。皆さん畑などがあるからダンボくんを使われるのかと思っていたので、その利用先がなくても生ごみを再利用したいという人たちを救い上げたいという思いがあります。ダンボくんを使う人の多くは利用先があるということだったので、どんなふうにしたらよいかというところは課題かと思いますが。 環境フェアを 10 月に実施する予定なので、そこに持ってきてもらうとかも考えてはいるのですが、生ごみをそのまま持ってこられても難しいので、先ほどのダンボくんで処理したものですとか、電気式で乾燥させたものを集めることを検討しています。まだ検討段階ですので、こうしますとはなかなか現段階ではお示しできませんが、色々な方法を検討していきたいと考えています。
会長	どんどん進んで事業化ということになるといいですよね。 はい、それ他にご意見ありませんか。
委員	先ほど子供さんを使ってという話がありましたが、色々なことを周知するのは難しいですけれども、子供たちが小さいうちからそういう意識をもって大人になっていけば、ごみの減量化というところにつながっていくんじゃないかと思いますが、環境課で子供たちへの出前授業というような計画はお持ちですか。
事務局	出前授業は生涯学習課でとりまとめを行っていますが、そのプログラム中には環境問題やごみ問題もあります。要望があればいつでも職員が出向いてお話しすることはできます。 子供さんのうちから問題意識を持ってもらうというのは大切なことなので、こういう事業もできれば進めていきたいと思っています。
委員	学校さんの方がなかなか忙しいと言ってやってくれない部分もあるかと思いますが、ぜひ積極的に推進していただけるとありがたいと思っています。
事務局	今のご意見につきましては、こちらでも環境教育というのは非常に大事だと思っており。子供さんにそういった意識をもってもらって、家庭の中でもうまくそういった気持ちが育ってもらえるといいかと思いますので、進めていきたいと思っております。 生ごみ堆肥化につきましても、先日、テレビで関東の自治体の取り組みが紹介されており、生ごみ専用袋を取り入れて、それを回収する業者の方が自社の工場でたい肥化をするということでした。その事業者は海外にも事業展開をしている会社でしたが、地元の企業とマッチアップして、農家の方に提供して作物を育てるというような取り組みでした。いろいろな先進事例も研究していきたいと思っております。 またイオンリテールさんでも、電気をたくさん使うということで、店舗で発生した生ごみなどを集めてバイオエネルギーに変え発電する仕組みを作られたと照会されていました。 なかなかすぐに取り組むということはできませんが、色々な事例を参考にしながら、関市にふさわしいやり方を模索していきたいと考えています。
会長	他にございませんか
委員	重点プロジェクトにも事業所向けリーフレットの作成とありますが、一般向けというのは完了しているという認識ですか。
事務局	法律的には産業廃棄物以外は一般廃棄物ということで、一般の家庭から出る普通の

	ごみは一般廃棄物ですということで、ごみカレンダーと一緒に、こういうものをこうのように出してくださいというものを、従前から市民向けにやっていたんですが、事業所向けに事業者さんのごみはこう言う風に出すんですよというというものが特になかったということで、令和4年度に作成し、市のカウンターや商工会などで配布をさせていただいています。
委員	ありがとうございます。ちょっと気になったのが、私の仕事でお客さんからごみの相談を頂くことがあって、一般廃棄物の処分方法というか、どんなごみがどの業者にお願いできるのかわからないと言われます。うちだけでなく、同じように事業者の方でそういう相談をうけると、サービスの一環でごみを引き取ってしまったりというようなことが起こっているんじゃないかと思います。
事務局	クリーンプラザへの持込については環境課の窓口で申請していただいてから持ち込むのですが、その際にこういったものが一般廃棄物で持ち込みができ、こういったものは産業廃棄物なので専門の業者さんに相談してくださいというような案内をしています。仕事で出たごみを個人の生活から出たごみとして持ち込むような事例は、環境課の窓口では対応が難しく、クリーンプラザの現場で職員が怪しいと判断した場合、そこで指導しているというのが実情です。
委員	市民アンケートの自由意見の中にも、クリーンプラザで疑われるというようなものがありますが、こうやって現場で疑うというかそういうことがあるのも、高齢者の方など市民の方が詳しくないというか、あまり意識せずに解体業者さんなどに一般廃棄物の処分を相談してしまって、業者の方でもお客さんに頼まれると断り切れない部分もあるんじゃないかと思います。うちではそういったものは取扱いできませんと断るんですが、一般廃棄物の取扱いができる業者さんは少なくかなり高額で、安いところを探そうとして間違ったことをしてしまうのではないでしょうか。そういう点からいうと、処理業者の許可の選定基準というか、自由競争があった方が良いのじゃないかと思います。
事務局	一般廃棄物の処理業者に競争があった方が良いのではという話ですが、先ほども少し触れましたが、一般廃棄物は、本来、市が行うべき業務で、市では手が回らない部分のみを業者に出すという形になるので、仕事がない業者さんを作るわけにはいかない。これは法律でそのような形になっています。料金についても高額と言われましたが、そこまで高額ではなく、適切な料金だと考えています。異常に安い値段で引き受けるようなところが違法なところだと思います。 一般廃棄物を最終的に持ち込むのはクリーンプラザ中濃になるので、その処理費用と、収集運搬の費用を請求される形になっています。料金の内訳の詳細のところまでは確認していませんが、料金の表などを出させて確認し許可を出しています。
委員	そういうことではないということであれば、極端に安い金額を出しているような違法な業者をいかに締め出すかというところが課題でしょうか。
事務局	そうですね。違法業者をどのように見つけ、摘発するかというところが課題だと思います。
会長	ありがとうございました。その他ございませんでしょうか。
委員	高齢者団体の代表として参加させていただいているんですが、重点施策4高齢者世

	帯が困らないごみ出しの支援を令和 3 年から 6 年度で検討されるということで、洞戸・板取・上之保は特にそうですが、市街地の方でも一人住まいの高齢者の方がごみ出しで困っている方がたくさんいらっしゃいますので、令和 7 年度の、次の計画にどのように反映されるか楽しみにしています。
事務局	はい、先ほどの説明にも少し出てきましたが、昨年度から高齢者のみの世帯を対象に個別収集ができないかということで、実証実験を行っています。昨年度は東ウイングにアンケートをお願いして、その中でごみ出しに困っている世帯 8 世帯を対象に実施し検証するということをやっています。今年度は西ウイングの板取・洞戸で同じことをやって、その実証実験の結果を踏まえながら、今後どうしていくかということを考えていきたいと考えています。
委員	よろしくお願いいたします。
会長	すごく良いことだと思いますので、広げていただければと思います。他にありませんか。
事務局	最後にいくつかご紹介ですが、先ほど分別について少し話題が出ましたが、ごみカレンダーの他にスマートホン用のアプリで『さんあーる』を導入していまして、そのアプリを入れていただくとアプリでどんなものが何ごみになるかというのがわかるようになっています。ぜひご利用いただければと思います。 それとクリーンプラザへ持ち込む際に紙で申請をしていただいていますが、今年度 7 月 1 日から正式に始めるのですが、オンラインでスマートホンなどから申請ができるようになります。こちらも利用していただければありがたいと思います。
会長	他はよろしいでしょうか。 貴重なご意見ありがとうございました。 これにて、本日の審議はすべて終了いたしました。 議事進行にご協力をいただきありがとうございました。 進行を事務局に戻します。
事務局	本日はどうもありがとうございました。 会長さんどうもご苦労様でした。 いただいたご意見については答申書としてとりまとめ、会長さんに確認していいただいたうえで、市長へ答申させていただきます。 以上で審議会を閉会させていただきます。
	閉会